

幼い頃から自然愛好家でいらした昭和天皇（1901～1989）は、毎年夏に那須御用邸に1か月から2ヶ月ほど滞在された。これらのご滞在中、天皇は御用邸敷地内の森を散歩しながら植物調査を行われた。天皇は御研究の成果を「那須の植物」として4冊の本にまとめられ、それらは1962年から1985年の間に出版された。

植物採取の際、昭和天皇は自然の生息環境をそこなわないように配慮されていた。小さな植物を見つけられたときも、その地域に同じ植物が他にあるか尋ねられ、その植物がその種の唯一のものだったときは、採取せずにただ観察されるだけだった。天皇は自然のすべてに深い敬意と感謝の念を持っていた。天皇の侍従がある植物を「雑草」と言ったことがあったが、昭和天皇は「雑草などというものはない」と優しくたしなめられた。